

学校評価計画

小松市重点目標

未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に育成する学校

授業の質的改革 → 資質・能力を確実に身に付ける児童生徒の育成

- ①児童生徒が 主体的・対話的に学習したくなる授業
- ②児童生徒が 自己の思考を深め、自己表現したくなる授業（思考力・記述力・発表力）
- ③児童生徒が 自己の学習をふりかえり、学びを実感できる授業

組織的な体制・環境づくり → 児童生徒に資質・能力を身に付けさせる教員の育成

- ④教職員が 目標や課題を共有し自己の役割に責任を持ち、課題の解決に取り組む
- ⑤教職員が 授業力を高める。切磋琢磨し学校研究に取り組む
- ⑥教職員が 児童生徒が主体的に活動できるように環境を整える

令和5年度 学校評価重点計画

小松市立串小学校
学校長 柴田 和美

目指す児童像

なりたい未来を創り出すためにチャレンジする児童

- なりたい姿に向かってチャレンジする子
- 自分で考えて、探究する子
- 他者と話し合い、問題を解決したり新しい考えを生み出したりする子
- 自分や友達のがんばりや成長を見つけたり、応援したりする子

（１）学校の課題

- ① 他者と交流することを通して、自己の考えを広げ深めていく力の育成が求められる。
- ② 自治的な力（自分たちで話し合い決定し実行する力、自分たちの問題を自分たちで解決する力等）の育成が求められる。
- ③ 月曜日に児童の欠席が多いことやメディアに関する課題等から、自律という点で個人差がある。
- ④ 自分の考えを進んで表現するなど、主体性という点で個人差がある。

（２）具体的な方策と検証

◎学校の課題解決のための共通システムを構築し、共通実践を図る。PDCA サイクルを回しながら、検証し改善を図る。

- ・児童・学校の実態に合った効果的で効率的な教育課程（日課表やおしゃべりタイムの設定等）を工夫し、実践する。
- ・「みんなが楽しい学校、みんなが成長できる学校を みんなでつくる」というスローガンを児童と共有し、集会や学級会（学級活動１）をシステム化し、自治的な集団を育成する。
- ・若プロ等の校内研修を工夫して、学級経営、児童理解、生徒指導力を高める。ICT 活用についても、GIGA スクールの計画に沿い、定期的な学びの場、実践交流の場を設定する。
- ・「語り合い学びが深まる授業」に向けて、総合的な学習の時間を通して、探究的な学びについて研究を深める。算数においては、共通実践できる具体的な方法確立し、全校で実践する。また、他教科等の日々の授業においては、教員、児童それぞれの「授業チャレンジ」の取組を通して、定期的に具体的な目標を掲げ、スモールステップで高めていく。
- ・児童の学力の実態を分析し、弱みを克服するために、授業改善や帯タイムの内容の工夫に取りくむ
- ・キャリア教育では、「なりたい自分」を思い描き、それに向かってチャレンジする共通の学習活動を設定し取り組む。